

ひらがなの指導(2) 書きの学習

言語・学習指導室 葛西ことばのテーブル
三好純太

本講の概要

- ◎健全発達における、ひらがなの書字の習得過程を概説する。
- ◎発達障害児を対象とした、ひらがな書字の手法について紹介・解説する
- ◎書字のレディネス～単語書字 程度までを主な内容とする。

ひらがなの概要

●ひらがなの形成

- * 平安時代に成立

基となる漢字(字母)の
全体を变形・抽出

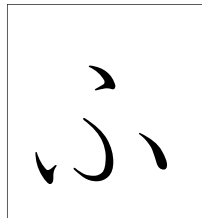
安 あ

↓
カタカナ

漢字の一部分から抽出 利 → り

●ひらがなの特徴

- * 曲線的
- * 統合性
- * 運動性(流れ)



●ひらがなを規定するもの

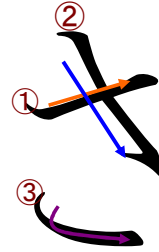
- 画数(ストローク数)
- 筆順 : 順番 / 方向 / 筆数
- 字体
- 書体

■画数(ストローク数)

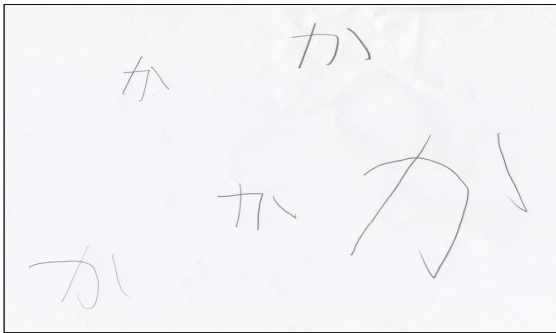
- 1画 (し く ...)
- 2画 (い う ...)
- 3画 (あ か ...)
- 4画 (き な ...)

■筆順

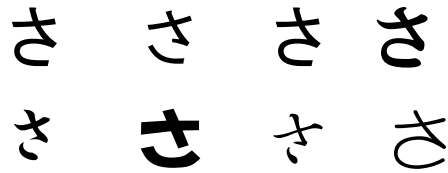
- * 順番
- * 方向
- * 筆数



■字体



■書体



●字形のエLEMENT

- 直線(縦線/横線/斜線)
お き く
- 曲線(たわめ/* 巻き/* 交差巻き) * 演者の造語
こ の よ
- 点(濁点および半濁点)
が ぱ

◇その他の分類(小森ら)

- ・折線重複 んれ ・交差 ちけ
- ・接点 とよ ・丸み あの
- ・要素分離 はい ・要素不分離 めお

「書字」に関する知識

●書字の種類

①なぞりがき

②視写

*記憶再生書字

*空書

自
発
想
起

③聴写(聞き取りdictation)

④書称

●書字の単位

◆1文字 → 文字の書称、習字

◆単語 ◆文章 → 表現・伝達

●書字の運動

必要とされる身体機能

- * 座位の安定: 体幹のバランス／筋緊張の保持
- * 頭位の安定・移動
- * 上肢の運動機能(肩・肘・手首)
- * 手指の運動機能: 小文字実現のための巧緻運動

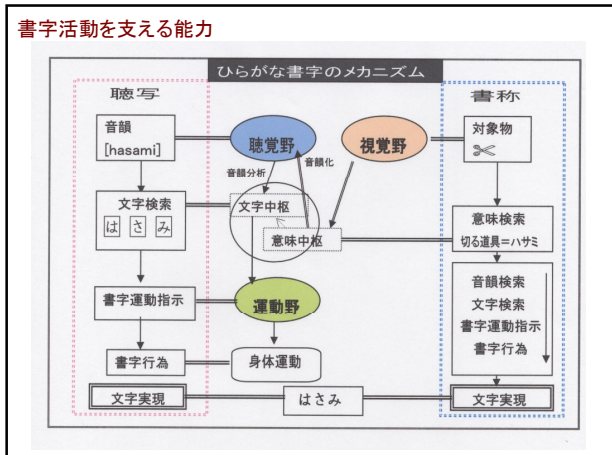
視覚機能 : 視写対象の注視／表出状況の確認

- * 座位の安定:
体幹のバランス
筋緊張の保持
- * 頭位の安定・移動
- * 上肢の運動機能
(肩・肘・手首)
- * 手指の運動機能:
小文字実現のための巧緻運動



視覚機能
視写対象の注視
表出状況の確認

書字活動を支える能力



- 書字活動を支える能力
- 読字能力
 - 描線能力
 - 音韻認識能力
 - 身体運動能力
 - 身体運動感覚(運動覚・位置覚などの深部覚)
 - 視覚能力
 - 語彙能力
 - 注意能力
 - 意欲

健常見におけるひらがな書字の習得

国立国語研究所による
「幼児の読み書き能力調査」結果から
(1967年実施)

「幼児の読み書き能力調査」より
【 書きの水準 】

清・濁・半濁音71文字中の書字数 ※聴写によるテスト

	0	1~5	6~20	21~59	60~71
4才児	26%	28%	25%	20%	0.4%
	(読み33%)				
5才児	5%	13%	25%	53%	4%
	(読み64%)				

外的要因) 暦年齢/性差/保育年数/地域

- 【 習得の傾向 】
- 読みに比べて、書きは困難
↓
書ける字は、5才児で読字の1/2、4才児で1/3程度
 - 文字による難易度差
易 し・い・こ…え・わ・と…
な・れ…せ・ほ…ぷ・ち 難
 - 形態の複雑さ・50音図と相関 / 習得は易しい文字から進む
 - 同系列文字の比較
易 清音 → 濁音 → 半濁音 難

【誤反応の傾向】

* 字体の側面

多 鏡映 → 雑(複数の誤り) → 異音異字
→ 添加 → 変容 少

〈視写テストとの比較〉

視写の場合は、鏡映が減り、雑が増える

* 筆順の側面

- ・「ら」「う」→点の後書き
- ・「け」「は」→複合線先行 などの誤りが多い

【特殊音節の書字の傾向】

基本音節の書字は短期間に進むが、
特殊音節の書字は遅れる傾向。



5歳台で4割程度の達成

書字のレディネスとなるもの

● 視覚認知機能の発達

* 知覚の体制化が不可欠

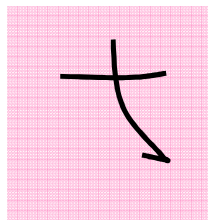
① 図-地の知覚

② プレグナンツの法則

近接 / 類同 / よい連続 / 閉合 ⇔ 崩壊

* 注視機能の発達

① 図-地の知覚



② プレグナンツの法則

近接

** ** * * * * *

け は

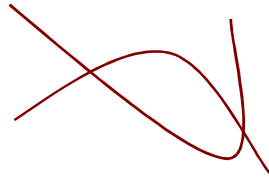
閉合

< > < > < > < >

こ い

②プレグナンツの法則

よい連続



さ け

②プレグナンツの法則

ゲシュタルト崩壊

け

近



●運動機能の発達

* 身体遠位部での巧緻運動の達成

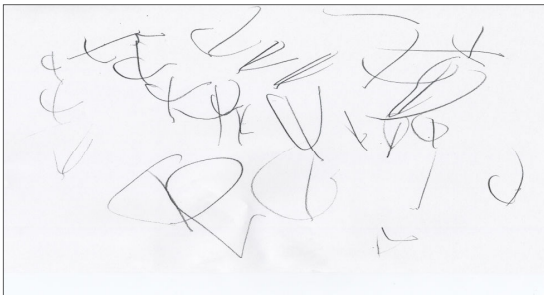


●模倣行動

* 幼児文字・スクリブルの産生

→ 形態認識・記号概念形成に寄与

◆スクリブル例



●読字能力

前提として

* 書ける文字＝読める文字

●音韻認識の発達

- * 特殊表記の書字: 特殊拍の確立

きゃべつ ちゅーりっぷ さっかー

- * 単語書字: 単語内での音韻分析が不可欠

れいぞうこ しんかんせん

●構音の習熟

- * 正しい構音
→正しい表記につながる

例: 側音化構音児の書字の誤り

しんぶん→ちんぶん かぎ→かじ

●統語認識の発達

- * 助詞表記の運用

は へ を

- ※ 小学校1年時の学習の問題例

おかあさんは りんごを きる

●語彙知識の向上

- * 長音表記などの際の語源理解

ippo:ni 一方に いっぽうに
一歩鬼 いっぽおに

●ワーキングメモリー

- * 視写学習の際の刺激の保持

- * 音韻分析しながらの書字行動

書字能力の評価

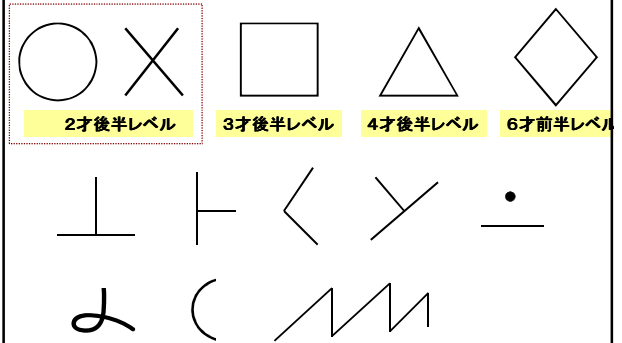
書字能力の評価

- 書字習得状況の評価：読み書き能力検査
- 情報収集(習得状況・関心・嗜好など)

基礎
認知
能力

- 描線能力の評価
- 形態認識能力の評価
- 視覚記憶能力の評価
- 構音状況の評価
- 語彙能力の評価
- その他の領域の評価(数概念など)

● 描線能力の評価



書字困難の分類

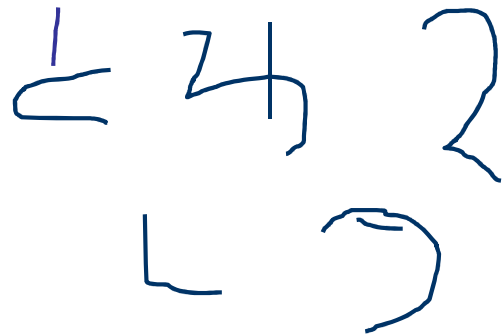
書字困難の分類

- ◇ 読字未習得
- ◇ 文字想起困難
- ◇ 形態実現困難
- ◇ 音韻認識に起因する誤り
- ◇ 注意力に起因する誤り
- ◇ 統語認識に起因する誤り
- ◇ 形態の拙劣

◇ 文字想起困難

視写は可能 ⇔ 自発書字は困難

◇ 形態の実現困難



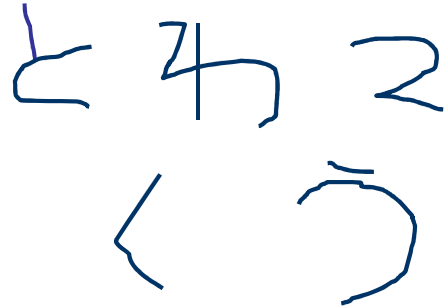
◇音韻認識に起因する誤り

タイプ別分類)

- * 発話での音韻実現困難
- * 発話では音韻実現可
- * 聴取は可・発話不可

などetc

◇形態の拙劣



◇注意力に起因する誤り

- * 文字の脱落、付属記号・句読点の欠落 など

◇統語認識に起因する誤り

助詞表記の誤り

おかあさんわ がっこうえ いった。

【発達障害児における書字の特徴】

- ★複合的な要因、もしくは能力全般の未熟さにより、書字困難を呈している場合が多い

書字の学習

●書字のレディネス

①描線能力の育成

②視覚認知能力の育成

③視覚記憶能力

④構音の指導

①描線能力の育成

* 停留のないストロークの産生が重要

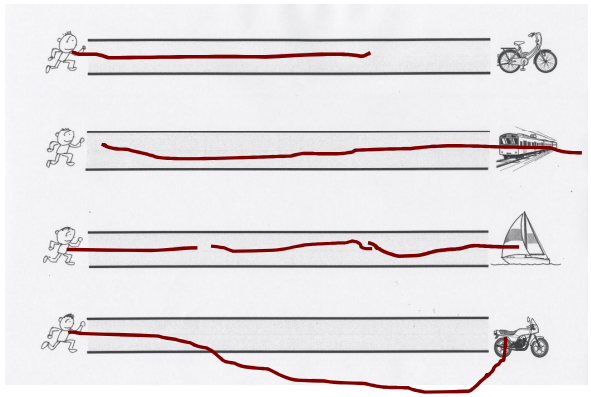
線分のエレメント:

量(長さ) / 傾き / 方向 / 始点—起点

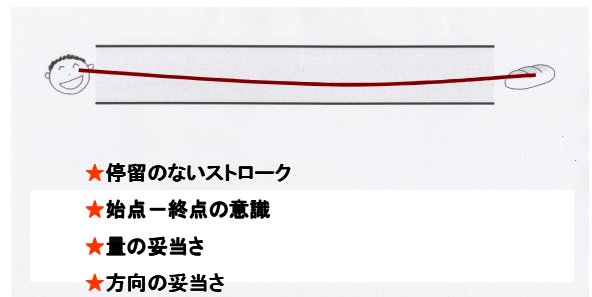
* 交差線分・角・交差巻き・折れ線重複などの描出

* ゆっくりと線を辿る練習 (全体と部分の注意の切り替え、衝動性の抑制)

描線の例



描線の例



★ 停留のないストローク

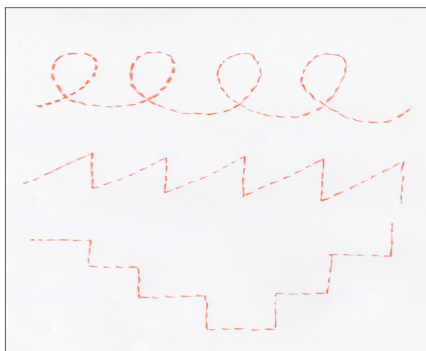
★ 始点—終点の意識

★ 量の妥当さ

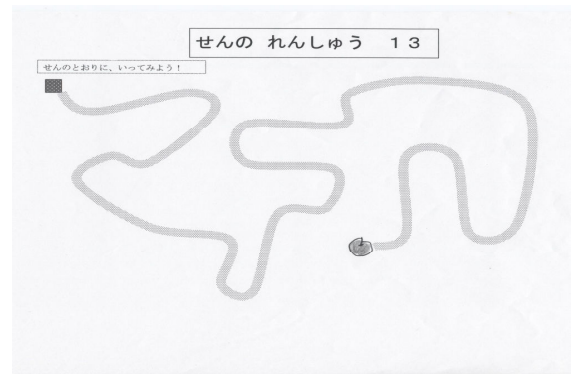
★ 方向の妥当さ

★ 数量の正しさ

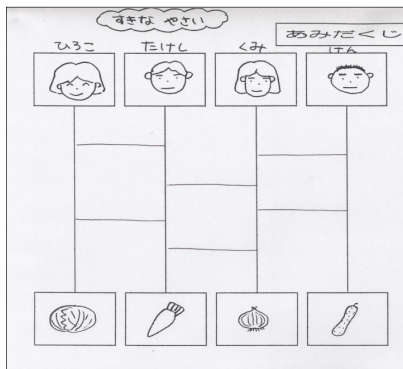
なぞりによる描線運動の描出



なぞりによる描線運動の描出

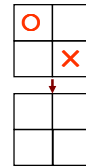


あみだくじ : 線への気づき

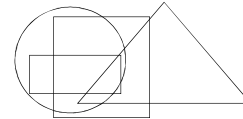


② 視覚認知能力の育成

* 空間配置の把握
位置マッチング課題

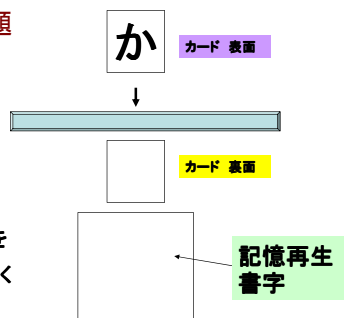


* 重複図形の認識課題



③ 視覚記憶能力

視覚的把持課題



* 再生までの時間を
徐々に延長して行く

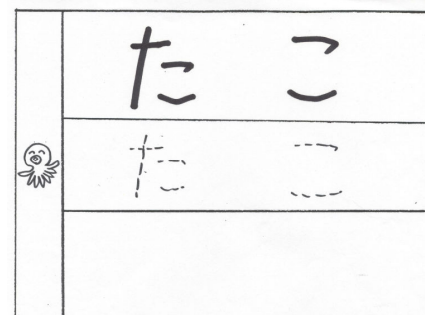
● 書字の学習方法

- ① なぞり書き
- ② 視写
- ③ 記憶再生書字
- ④ 聴写

① なぞり書き

- ひらがな書字運動の特徴の把握
= 筆順の理解・習得
- 各ひらがな文字の統合的イメージの育成
- ひらがな文字に含まれる線分要素への習熟
- ※ とくに、線分交差・交差巻き・割れ線重複・
たわみ・斜角・垂直接点

① なぞり書き



①なぞり書き

みかん

みかん

みかん

みかん

みかん

②視写

文字を見ながら、書写する

習得にもっとも効果的とする研究が多い

【視写による 書字の実現過程】

①刺激となる文字を認識(「か」)

か

認知過程

②文字の構成を分解・分析
(線分の数量・位置関係・形態など)

か

③分解した線分を描出

ノ

表出過程

④文字を再構成(統合)

か

板書の有用性

対象への注意のフォーカス
記憶保持のトレーニング

方法) ○すでに書かれている字を写す
(筆順などの運動記憶が求められる)

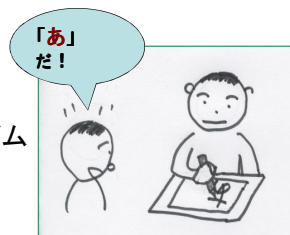
○一筆ずつ写す(初期段階に必要)

※子どもと同側で文字を書く

* 他者の筆跡を観察する意義

ミラーニューロンの形成・賦活?

→ 纯粹失読例での
読みのメカニズム



※なぞり書き・視写とも、

見本の文字および、

描出スペースを、

徐々に縮小して行く

③記憶再生書字

(1)文字を良く見た後に、視写する

即時再生 → 一定時間後再生へ

(2)文字の一部分だけを見て、残りの部分を書く

提示部分を徐々に減らし、
自発再生部分を多くして行く

③記憶再生書字



④聴写

■書字能力の評価として用いられる

■学習として

* 文字出力と音韻とのルートの強化

* 記号としての認識強化

特殊表記の書字

- 拗音
- 促音
- 長音
- 撥音
- 助詞「は」「へ」「を」

《書字の誤反応分析》

◎書字の誤りの分析から、書字および読字における、子どもの問題点を探索する。

例) 拗音表記において子音／半母音どちらの音声学性質に偏位した誤りがあるかなど

《書き取りテスト誤反応結果》

おでん(おてん(3))
ぼすと(ぼすと(3) ぼすと(2) ほと)
くうき(クッキー くーき(3) くき)
もつと(もと(4) もうと(2) ぼつと)
ちやわん(じゃわ ちゃんわ ちゆわん ちわん わしやん ^他)
げんき(けんき けき)
くしゃみ(くしみ クツシャミ くやみ(2) くさみ(2) くしゆみ ^他)
こんや(こや こうや(2))
せいと(せいとう(6) せえと せーと(2) セーと せんと せと さいと)
えぷろん (えんぷろん えづろん えぶらん へぷろん 他)

被検児数 : 30名 (難聴・重度の辨音障害児は除く)

☆書字の運動について

* 粗大な運動から、微細な運動へ

近位部 ⇒ 遠位部へ

屈曲・進展 内転・外転
外旋・内旋 回内・回外

肩 ⇒ 腕 ⇒ 手首 ⇒ 手指

大きな字 → 小さな字

自由に書く行為
の重要性

☆書字は多感覚の複合により成立している

=さまざまなルートからの接近が可能

複数ルートでの学習

単一ルートでの学習

音・形態・運動覚など複数
の刺激を同字提示

子どもの能力適性に効果的な方法を探索

【単語書字の学習】～書字の実用レベル～

①書称(事物や絵を見て、名称を書く)



②内言の書字へ

単語を想起 → 音韻化 → 書字へ

ありがとう／げんき

* 継時的な音の順序の分析が必要

☆書字学習の特質

習得までに長い反復練習が必要



根気強く取り組んで行ける環境が重要

☆書字に関わる諸問題

■ 書字行動の衝動性の問題

■ 書字形態への固執の問題

■ 利き手の問題

おわりに

手で書くのか、キーを打つのか

⇒出来上がったものは、どちらも、日本語の記述物



**今後の社会状況とも合わせた、
指導方法の検討が必要**

参考図書

- 「ことばの発達と障害」第1巻～第3巻 大修館書店
- 「子どものかな文字の習得過程」秋山書店
- 「子どもたちの言語獲得」大修館書店
- 「言語発達遅滞訓練ガイド」医学書院
- 「学習障害」ブレーン出版
- 「言語聴覚療法臨床マニュアル」協同医書出版社
- 「脳のメモ帳 ワーキングメモリー」新曜社
- 「発達の遅れがある子どもの国語」学研
- 「日本語の誕生」岩波新書
- 「日本語教育ガイドブック」ひつじ書房
- 「子供のための日本語教育」アルク